



競輪の補助事業

この事業は、競輪の補助により実施しています。
<https://hojo.keirin-autorace.or.jp/>

< オリンピック・ムーブメント事業 >

JOCオリンピック教室

実施報告書

岡山県 岡山市立山南学園



公益財団法人 日本オリンピック委員会

「オリンピック教室」の実施にあたって

平成21年4月の学習指導要領から、中学校「保健体育 体育分野」及び高等学校「科目体育」における「体育理論」の領域で、文化としてのスポーツやオリンピック・ムーブメントの意義を学ぶことが示されました。中学校3年生では、「オリンピックや他の国際的なスポーツ大会などは、国際親善や世界平和に大きな役割を果たしている」現状を通して、オリンピックの意義を学習することになっています。そこで、JOCでは、中学校3年生の体育理論の学習に先がけ、その内容を事前に啓発する目的で中学校2年生を対象に、平成23年度から授業形式で行う「オリンピック教室」を実施してきました。

近代オリンピックの創始者ピエール・ド・クーベルタンは、人間本来の資質を高めるために、スポーツと文化と教育の側面を持つオリンピックの価値を広めることが相応しいと考え、オリンピック・ムーブメントを推進してきました。JOCもこの価値を若い世代に語り継ぐことは、極めて重要で大切な活動と考えております。日本代表としてオリンピックに出場した選手（オリンピック）は、その栄誉を自覚し、競技面だけでなく社会生活の上でも、模範となる行動が求められますが、オリンピックがその価値を直接生徒に伝えることで、日頃の授業では味わうことの出来ない感動が生まれることが期待されます。

「オリンピック教室」の授業では、教師役のオリンピックが、オリンピック大会出場に至るまで、あるいは、実際にオリンピック大会に出場して得た貴重な経験等を通して、「エクセレンス」、「フレンドシップ」、「リスペクト」、「努力から得られる喜び」、「フェアプレー」、「他者への敬意」といったオリンピックの価値（バリュー）等を伝えます。同時に、この価値がオリンピックに出場した選手だけのものではなく、多くの人々が共有し日常生活にも活かすことのできるものであること、さらに、こうした考え方があるからこそオリンピックに価値があることを生徒自身が学ぶこともねらいとしております。

平成29年3月公示の新学習指導要領では、新しい時代に求められる資質や能力を子供たちに育むために、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業の工夫や改善が求められています。「オリンピック教室」でのふれあいの中での学びが、教科の枠を越え、これからの社会や人生に活かせる資質や能力を育む一助になることを期待しております。また、この授業を通して、生徒の皆さんが、運動やスポーツが好きになり、生涯にわたり豊かなスポーツライフの実現につながることも願っています。

令和6年4月

公益財団法人 日本オリンピック委員会

- 目的： オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）が教師役となり、
オリンピック自身の様々な経験を通して
「オリンピズム」や「オリンピックの価値」等を伝えると同時に、
この価値はオリンピックだけのものではなく、多くの人々が共有し、
日常生活にも活かすことの出来るものであることを授業を通して学習してもらう。
- 事業名： JOCオリンピック教室
- 主催： 公益財団法人日本オリンピック委員会(JOC)
- 後援： スポーツ庁
- 協力： 公益財団法人JKA、開催地自治体及び同教育委員会
- 対象： 中学校2年生
- 講師： オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）※派遣オリンピックはJOCが選定
- 期間： 2024年4月～2025年3月 ※原則、平日開催
- 実施校数： 80校程度
- 実施方法： クラス単位を基本とし、2コマで1セットの授業

1コマ目 運動の時間 / 50分

身体を動かしながら生徒との距離を縮め、
チームワーク、フェアプレー、身体を動かす
ことの楽しさ等を感じてもらいます。



2コマ目 座学の時間 / 50分

競技者人生を振り返り、自身が感じた
オリンピックの価値を生徒に伝え、
オリンピックをより身近に感じてもらいます。



1コマ目

運動の時間 / 50分

オリンピックの専門競技の技術指導(=スポーツ教室)ではなく、
運動が苦手な生徒も参加できるように工夫されたもの

挨拶(5分)

準備体操(10分)

主運動(30分)

まとめ(5分)



自己紹介
学習内容の確認



準備体操



主運動
(作戦タイム等を設け、
生徒が考える機会を作る)



運動の時間のまとめ

2コマ目

座学の時間 / 50分

国際オリンピック委員会(IOC)が推進する「オリンピックの価値」等を、オリンピックがオリンピック競技大会出場に至るまで、あるいは実際にオリンピック競技大会に出場した経験等を通して、分かり易く伝えると同時に、生徒自身が自分ごととして捉え、今後に活かせるような学習内容

挨拶・自己紹介(10分)

オリンピックの価値を伝える(10分)

グループワーク(20分)

まとめ(10分)



学習内容の確認



写真・映像等を使用した自己紹介



オリンピック自身の経験に基づく「オリンピックの価値」等を伝える



個人またはグループワークで話し合った内容を発表



全体のまとめ
記念撮影(クラス写真)

※時間は目安です。
※内容はオリンピックによって変動する場合があります。

●時間割について

- ・1クラスにつき、運動の時間+座学の時間の順に、2時間連続で実施します。
- ・1コマ目の運動の時間は体育館で、2コマ目の座学の時間は当該クラスの教室で行います。
- ・原則1クラスの場合は3-4時限目、2クラスの場合は3-6時限目、3クラスの場合は1-6時限目の調整となります。
- ・1日に実施できるクラス数は最大3クラスまでです。4クラス以上実施する場合は2日間以上での調整となります。
- ・同じ時間に複数クラスを実施することはできません。

- **オリンピック**： 勅使川原 郁恵 先生 (スケート／ショートトラック)
【出場オリンピック／長野1998、ソルトレークシティー2002、トリノ2006冬季大会】
- **期 日**： 2024年7月9日(火)
- **ク ラ ス**： 8年A組／運動の時間

○自己紹介 ～ 授業の目的確認 ～ 準備体操



・長野1998、ソルトレークシティー2002、トリノ2006の冬季3大会にスケート／ショートトラック競技で出場したと自己紹介。小さなコーナーを高速で回るため、遠心力に負けないように身体全体を左に大きく傾けた姿勢で回る必要があり、左手を氷上に着いた状態で回ると説明。運動の時間ではエクセレンス、フレンドシップ、リスペクトという3つのオリンピックの価値を意識しながら取り組み、その意味について皆と一緒に考えていきたいと伝え、準備体操に移る。

○主運動等



・ショートトラックリレー(全3回)を実施。5班に分かれ、マーカーを円型に配置してショートトラックに見立てたコースを作る。コーンが置かれている場所をスタートとし、マーカーに触れないよう、円形のコースの外側を雑巾掛けをしながら回る。必ず1人1周以上、班で合計10周回り、着順を競う。アンカーの生徒はタスキを着用し、ゴールの際は、アンカーがスタート位置のコーンを持ち上げ、ゴールの合図とする。2回目以降は、ゴールした生徒は円の中に座って待機することに変更して実施。コーンに触れた班は、トレーニングとして、その場で20秒間の高速足踏みを行う。



・運動の時間を振り返り、ショートトラックリレーでは、班の中で意見を出し合い、最後まで諦めずに一生懸命に取り組んだことはエクセレンスであり、お互いに仲間を思いやっていたことはフレンドシップであり、ルールを守っていたことはリスペクトである。3つのオリンピックバリューは運動の時間でも感じられたように、皆の日常生活でも感じることができるものであるため、座学の時間にさらに詳しく一緒に考えていきたいと伝え、授業終了。

- **オリンピック**： 勅使川原 郁恵 先生 (スケート/ショートトラック)
【出場オリンピック/長野1998、ソルトレークシティー2002、トリノ2006冬季大会】
- **期 日**： 2024年7月9日(火)
- **ク ラ ス**： 8年A組/座学の時間

○自己紹介～授業の目的確認～オリンピックの価値を伝える



・冬季3大会に出場したと自己紹介。実際に使用していたスケートのブレードを披露しながら、フィギュアスケートのブレードよりも細長く鋭く、より速いスピードが出ると説明。3回のオリンピックを経験し、一生懸命に取り組み、やり遂げた気持ちがあったため、悔いを残すことなく引退した。皆も色々なことに挑戦していると思うが、1回の挑戦で諦めず、何度も挑戦することが大事であり、これから様々な壁を乗り越える時が来ると思うが、途中で諦めず自分のために頑張してほしい。

○個人ワーク～グループワーク等



発問：運動の時間を振り返って感じたことをオリンピックバリューに当てはめて考えてみよう。
 エクセレンス：「最後まで走り切った」「諦めない」「工夫した」「楽しめた」「皆の考えを皆でまとめた」等
 フレンドシップ：「応援した」「パスをする時に(体が)当たらないように位置をずらした」「協力した」「責めない」等
 リスペクト：「仲間のことを理解してチームを組めた」「ルールを守った」「プラスの言葉」等



・座学の時間を振り返り、オリンピックバリューの3つの価値は、オリンピックに出場した選手だけのものではなく、日常でも活かせるものであり、皆も大切にして自分自身を成長させてほしい。オリンピックバリューを意識していくことで、日常の生活が充実していくことにつながり、一人の人間としても成長していけるため、身近に感じながら大切にしてほしい。パリオリンピックが来月から開催されるが、世界中の選手が集まって全力で頑張っている姿を是非皆も応援してほしいと伝え、授業終了。

- **オリンピック**： 勅使川原 郁恵 先生 (スケート/ショートトラック)
【出場オリンピック/長野1998、ソルトレークシティー2002、トリノ2006冬季大会】
- **期 日**： 2024年7月9日(火)
- **ク ラ ス**： 8年B組/運動の時間

○自己紹介～授業の目的確認～準備体操



・長野1998、ソルトレークシティー2002、トリノ2006の冬季3大会にスケート/ショートトラック競技で出場したと自己紹介。小さなコーナーを高速で回るため、遠心力に負けないように身体全体を左に大きく傾けた姿勢で回る必要があり、左手を氷上に着いた状態で回る、他の選手と接触するとバランスを崩して転倒してしまうこともあると説明。運動の時間では3つのオリンピックの価値を意識しながら取り組み、その意味について皆と一緒に考えていきたいと伝え、準備体操に移る。

○主運動等



・ショートトラックリレー(全3回)を実施。5班に分かれ、マーカーを円型に配置してショートトラックに見立てたコースを作る。コーンが置かれている場所をスタートとし、マーカーに触れないよう、円形のコースの外側を雑巾掛けをしながら回る。必ず1人1周以上、班で合計10周回り、着順を競う。アンカーの生徒はタスキを着用し、ゴールの際は、アンカーがスタート位置のコーンを持ち上げ、ゴールの合図とする。2回目以降は、ゴールした生徒は円の中に座って待機することに変更して実施。コーンに触れた班は、トレーニングとして、その場で20秒間の高速足踏みを行う。



・運動の時間を振り返り、班の中で意見を出し合い、お互いに仲間を思いやって走順を考えたりすることができていた。途中で諦めずに一生懸命に取り組んだことはエクセレンス、チームワークの良さはフレンドシップ、マーカーに触れてしまったことを正直に伝え、トレーニングに真剣に取り組んだことはリスペクトである。オリンピックバリューは運動の時間でも感じられたように、皆の日常生活でも感じるができるものであるため、座学の時間にさらに詳しく一緒に考えていきたいと伝え、授業終了。

- **オリンピック**： 勅使川原 郁恵 先生 (スケート/ショートトラック)
【出場オリンピック/長野1998、ソルトレークシティー2002、トリノ2006冬季大会】
- **期 日**： 2024年7月9日(火)
- **ク ラ ス**： 8年B組/座学の時間

○自己紹介～授業の目的確認～オリンピックの価値を伝える



・スケート/ショートトラック競技で長野1998、ソルトレークシティー2002、トリノ2006の冬季3大会に出場したと自己紹介。オリンピックシンボルの5つの輪は、世界の5大陸を表しており、重なりあっていることで世界の団結を表している。輪の5色と背景の白を合わせた6色で、世界の国旗が描ける。自分が3回もオリンピックに出場することができたのは、支えてくれた学校の先生や友達等、多くの人のサポートがあったからこそであり、関わってくれた全ての人に感謝している。

○個人ワーク～グループワーク等



発問：運動の時間を振り返って感じたことをオリンピックバリューに当てはめて考えてみよう。
 エクセレンス：「最後まで諦めない」「作戦を考えてベストを尽くす」「最後まで一生懸命取り組んだ」等
 フレンドシップ：「協力」「チームの皆と喜べた」「仲間との話し合い」「声掛け」「お互いに応援した」等
 リスペクト：「褒める」「フェアプレー」「一生懸命頑張ってくれて感謝」「応援に感謝できた」等



・座学の時間を振り返り、来月からパリでオリンピックが開催されるが、テレビを通してでも観戦しているとオリンピックバリューを感じられる場面があると思う。今日一緒に学んだことを思い出しながら選手達を応援してほしい。これからの学校生活や大人になっていく過程においても、オリンピックバリューを大切に意識していくことで、日常生活をより充実させていくことにつながり、一人の人間としても成長していけるため、身近に感じながら大切にしてほしいと伝え、授業終了。

■集合写真

・8年A組



・8年B組



■記念品贈呈

・8年A組



・8年B組



■修了証贈呈

